

令和5年度 愛臨技血液検査研究班 9月講演会

アンケート集計結果

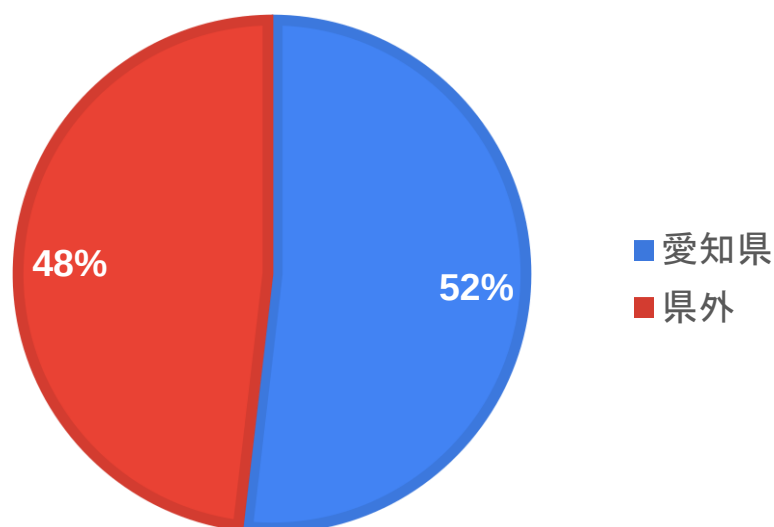
作成日：2023年9月18日

テーマ：ここが知りたい！フローサイトメトリー

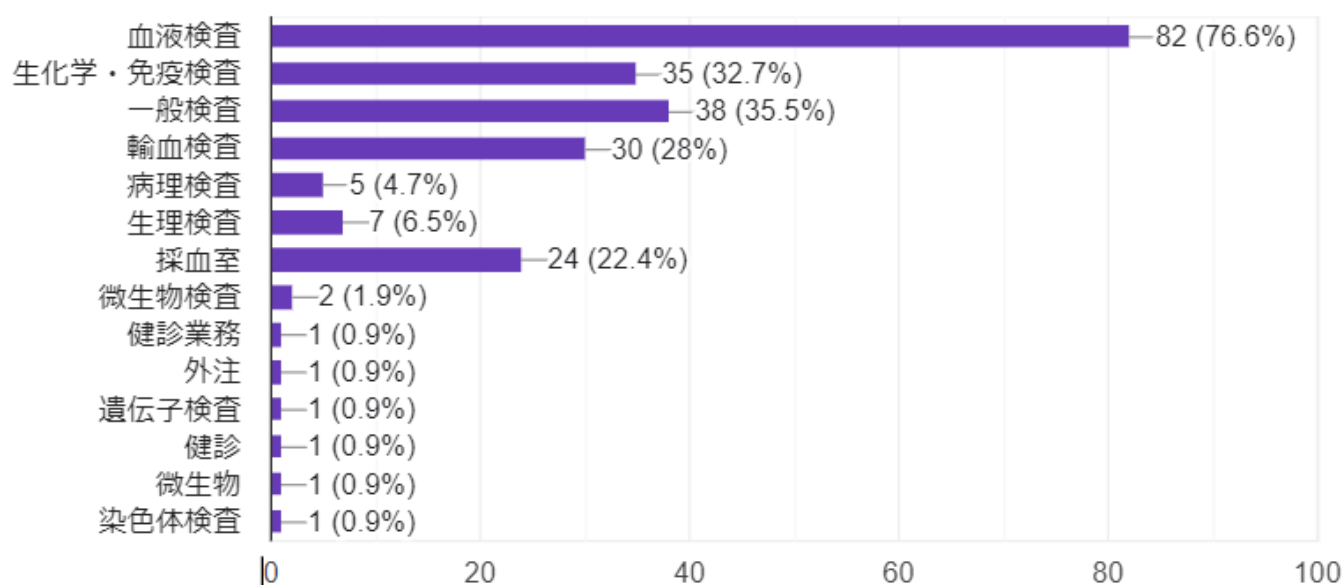
日時：令和5年9月16日(土)15:00~17:00（現地+ライブ配信）

【参加者の概要】

① 所属技師会について

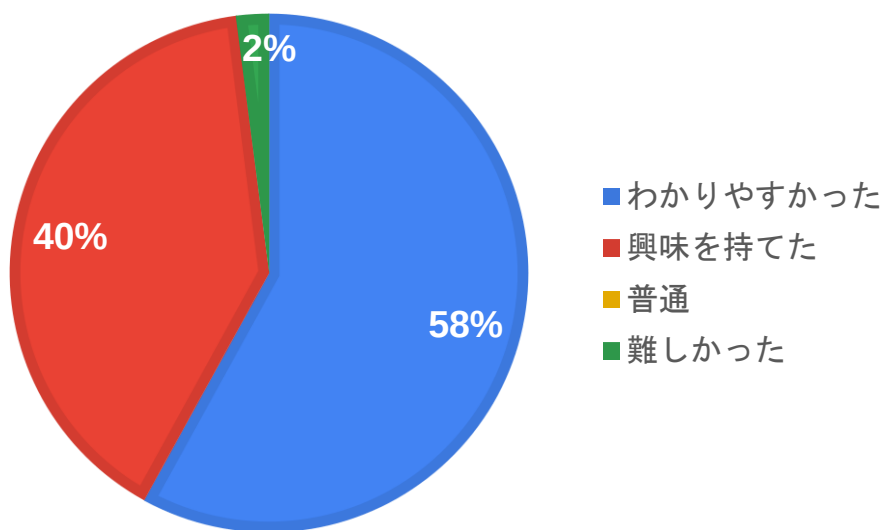


② 日常検査で担当している部署について

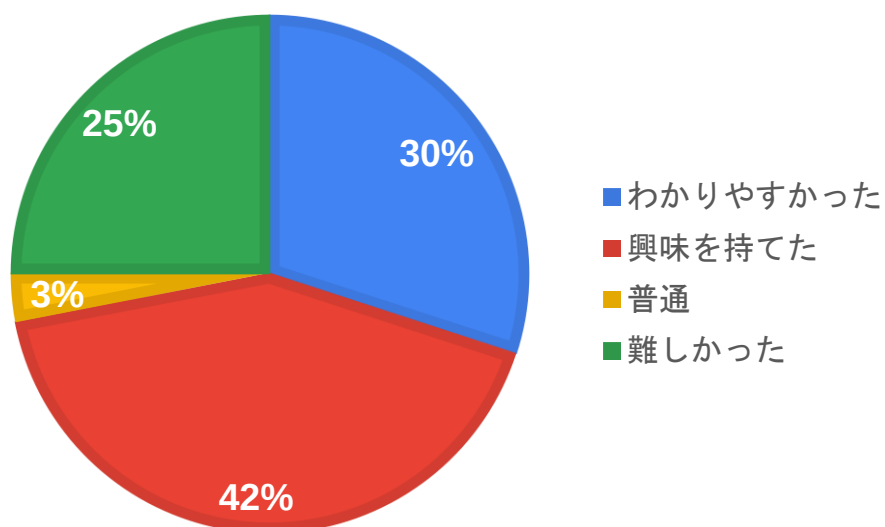


【講演について】

① 講演 1. 「症例から学ぶ、フローサイトメトリー」の講演内容についていかがでしたか？



③ 講演 2. 「フローサイトメトリーによる造血器腫瘍の診断 —検体処理から結果解釈まで—」の講演内容についていかがでしたか？



【9月講演会に関するご意見、ご感想】

- ・ フローサイトについて理解が深まりました。
- ・ 非常に明解で楽しい公演でした。ありがとうございました。
- ・ 大変勉強になりました(5名)
- ・ まだ血液疾患の知識も薄くフローサイトも理解するのに時間がかかりますが、普段目合わせや血液像標本で目に見ていた症例の答え合わせができてとても勉強になりました
- ・ とてもいい内容の公演であったが時間をかなり超えてしまったことはwebしか時間が取れなかったものにとっては辛かった
- ・ 普段外注にだしているので大変勉強になりました。
- ・ フローサイトメトリーに関して、結果を単独で解釈するのではなく、標本による形態判断や染色結果などを踏まえた上で総合的にを判断することが重要であると改めて実感できました。
- ・ 大変わかりやすかったです。今後も勉強を続けていきます。
- ・ 貴重なお話が聞けて非常に勉強になりました
- ・ 普段サイトメトリー検査については、外注のため、院内で実施して結果を解釈することについてとても勉強になりました。
- ・ FCM 検査は外注しているので、外注する際の注意点を説明していただき、参考になりました。
- ・ とても参考になりました。
- ・ とても勉強になりました。自施設では機器はないので結果の解釈を勉強したいと思い参加しました。とても分かりやすく、また、県外の会員も参加できるwebにしてくださって感謝しています。また機会がありましたら参加したいと思っています。今日はありがとうございました。
- ・ 表面マーカーは診断に重要であると再確認することができた。しっかり理解したい。
- ・ 本日はフローサイトメトリーについて貴重な症例やデータを用いてご講演いただきありがとうございました。
- ・ 大変勉強になりました 他県でもWEBで参加できるのはとてもありがたいです
- ・ 大変勉強になりました。復習して業務に生かします！
- ・ この度は貴重な講義を本当にありがとうございました。非常に勉強になりました。また参加させていただき、勉強したいと思っています。
- ・ 外注でFCMを出しており、見方の勉強で参加させていただきました。見方で悩んでいたところが分かりました。
- ・ 大変勉強になりました。詳しく勉強したいと思います。ありがとうございました。
- ・ 末梢血でPOD陰性のblastが出た際、blastとしてカウントするのかotherでカウントするのかどちらが良いのでしょうか。今回の症例ではotherだったかと思います。
- ・ これからも参加させていただきたいので、Webによる研修会をお願いします。
- ・ 県外からも広く参加させていただきありがとうございました。どの症例も形態の丁寧な観察とフローサイトメトリー検査、その他の検査と総合的な結果を踏まえた鑑別が必要であると感じ、鑑別すべき疾患の絞り込みには正しい知識や最新の情報をアップデートしておく必要があると感じました。業務に追われて流されがちですが、このような勉強会や施設ごとの取り組みなど積極的に参加したり実施して行こうと改めて感じました。また、骨髓吸引検体の1回目と2回目の乖離はフローサイトメトリー検査だけでなく他の遺伝子染色体検査でも気になっています。貴重な検体なので精度良く結果に繋げるために今後も注目していきたいと思いました。

【今後、聴講したい講演内容があればお聞かせください。】

- ・ マルクの見方(初心者向け)
- ・ さらにフローサイトの基礎も学びたいです。
- ・ 認定血液技師について
- ・ またフローサイトメトリー関連の勉強会があると嬉しいです。
- ・ マルク検査の進め方(マルク検体採取からカウント、報告まで)
- ・ リンパ球の形態について詳しく知りたい。また、化学療法後などの治療後における末梢血液像細胞の変化や、意義を知りたい。
- ・ 骨髓像、造血器腫瘍の遺伝子など
- ・ 薬剤による血球形態の変化
- ・ 病理での clot 標本の処理方法やみている像について。Clot が固まらなかったときやボロボロになったとき、少量しか得られなかったときどんな影響がでるのか気になります。
- ・ 骨髓分類で、症例ごとになりますが、どのようにコメントしているか知りたいです。
- ・ 形態を絡ませたデータの見方、考え方講義 1 の様な質問形式ですと自身の技術と知識を図れます。
- ・ 細胞遺伝学的分析(染色体) と血液疾患について
- ・ 色々な検体の血液細胞

【頂いたご質問についての回答】

- ・ 検体はフィルターで濾してから実施しておりますが適切でしょうか。

→池本先生よりご回答をいただきました。

再採取が困難な検体であれば濾過して使用するしかないと思いますが、濾過後の細胞数や腫瘍細胞の割合を測定し、報告書にコメントとして記載されれば良いと思います。

- ・ 末梢血で POD 陰性の blast が出た際、blast としてカウントするのか other でカウントするのかどちらが良いのでしょうか。今回の症例では other だったかと思います。

→どちらでも問題ないと思います。

必要なのは、報告した blast が正常造血によるものなのか、腫瘍性を疑うものなのかを医師と検査技師が共通認識しているかどうかという点です。

カウント数が多い場合は blast と報告しても腫瘍性と誰もが判断できますが、少数でも形態異常を伴う blast やご指摘の POD 陰性であった場合などは腫瘍性の可能性がありますので、other で報告して強調するのも一つの手と考えます。